



医療連携だより

公立置賜総合病院医療連携・相談室 ☎0238-46-5000 内線 1902, 1409

特集:

「病診連携」の
思い出

院長
渋間 久・・・1

顎顔面外傷外来
歯科口腔外科科長
平 幸雄・・・2、3

医療連携フォーラム
開催報告
・・・3

退院支援状況報告
・・・4

「病診連携」の思い出

院長 渋間 久



新澤前院長の後任として4月から着任しました渋間です。登録医の先生方、OKI-netご参加の先生・病院施設の方々、当院の医療連携にいつもご協力、誠にありがとうございます。

「医療連携」といえば、遡ること15年前くらい、平成10年頃を思い出します。当時私は山形市霞城公園前の県立中央病院の外科に勤務しておりました。胃がんや大腸がんなどの術後の患者は、抗がん剤を投与するでもないのに、患者からの申し出がない限りがんを見つけてくださった紹介医のもとにお返しするでもな

く、消化剤などの処方を書き返し、外来は通院患者で溢れ返っていました。そんな状況の中、当時の院長から病院の改築移転に向けて「病診連携」を担当する「地域医療部」を立ち

上げたので宜しくと頼まれました。外来患者の対応に熱心だった主任看護師と協力、平成13年5月の今の県立中央病院の移転に伴い、地域医療部(地域医療連携室)が動き出しました。部長を任せ、「協力医」(私が命名、この病院で言う登録医)制度を取り決め、自ら診療所を訪れ勧誘を繰り返しました。当時は確か250くらいの医科・歯科の先生方に登録頂いたと記憶しています。暑い中、銀行から出向のスタッフとともに山形市は勿論天童市、上山市、西村山郡、北村山郡医師会の先生方の診療所を訪れました。今でもその当時の銀行マンとはお付き合いがあります。今の県中のホームページを見てみると500を超えているようです。毎年6月頃協力医総会を企画し、

懇親会を病院内の食堂で数年間開きましたが、そのうち病院内での飲み会は患者の手前憚られるような風潮に逆らえず、キャスルやメトロポリタンで開くようになりました。平成17年、18年頃だと思います。平成19年に新庄に異動になってからは医療連携の仕事からは遠ざかっていましたが、医師会の先生方とのお付き合いはそれなりに頑張ったつもりです。原稿を頼まれて、「病診連携」の思い出を綴ってみました。

こちらに参りまして、できる範囲内で外来診療を担当しておりますが、当地域の連携の素晴らしさを改めて感じているところです。

今後とも置賜総合病院の「医療連携・相談室」をどうか宜しく願います。

顎顔面外傷外来

公立置賜総合病院

歯科口腔外科 科長 平 幸雄

日頃は歯科診療所を始めとして、一般診療所や病院の先生方から、いつもたくさんの患者様の御紹介を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

口腔外科は口腔(こうくう:口のなか)、顎(がく:あご)、顔面ならびにその隣接組織に現れる先天性および後天性の疾患を扱う診療科です。この領域には歯が原因となるものから癌までさまざまな疾患が発生します。また、交通事故やスポーツなどの外傷、顎変形症ならびに唾液腺疾患などの外科的疾患のほかにも、口腔粘膜疾患、神経性疾患、口臭症などの内科的疾患も含まれます。この領域の異常は、食事や発音、会話がうまくできないなどの機能的な障害に加えて審美的な障害も生じます。治療により口腔、顎、顔面全体の自然な形態や機能が回復すると、顔全体がいきいきとし、健康的な美しさを取り戻すことができます。そのお手伝いをするのが口腔外科です。

当院の口腔外科では埋伏歯の抜歯、歯科インプラント、歯性感染症、顎関節疾患、唾液腺疾患、顎顔面外傷、顎顔面奇形、口腔癌など様々な疾患に対して診断、治療を行っています。昨年度からは山形大学医学部口腔外科の飯野光喜教授に月1回(必要に応じて月2回以上)お越しいただき、高度な手術も行える体制が整っています。

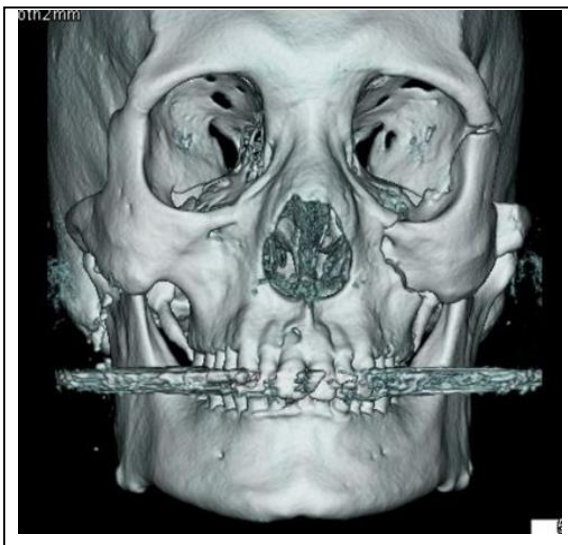
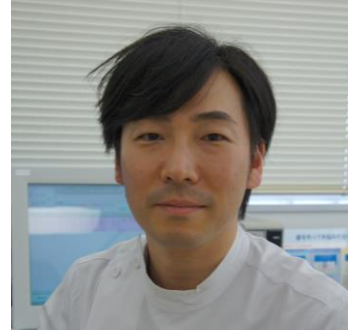


図 1. 左頬骨、上顎骨骨折の 3DCT 画像

また週 1 回当院にお越しいただいている山形大学医学部形成外科の菊地憲明先生とも連携し、顔面の広範囲にわたる治療を行っています。



こうした恵まれた環境の中で、中央手術室での手術件数は平成 23 年度の 57 件と比較して、平成 24 年度は 104 件とほぼ倍増しました。中でも、顎顔面骨骨折に対する観血的整復手術は平成 23 年度の 3 件と比較して、平成 24 年度は 12 件と大幅に増加しています。少しずつではありますが、私達の取り組みが地域の皆様に認知されてきているのではないかと考えています。

顎顔面の外傷では顔面皮膚や口腔粘膜などの軟組織の損傷だけにとどまらず、歯や歯槽の損傷、上顎骨、下顎骨、顎関節突起、頬骨、頬骨弓、鼻骨、眼窩など、顔面を形成する骨の骨折を伴う場合があります(図 1、2)。その結果、咬み合わせや口、顎の機能まで損なうこともあります。口腔外科では、外見の損傷の治療だけでなく、咬み合わせなどの機能の回復を考慮した治療(最近では歯科インプラントを含めた包括的機能再建治療)を行っています。



図 2. 整復固定術後の 3DCT 画像

今回、山形大学医学部口腔外科と形成外科との協力によって、これまでにない高度な顎顔面外傷医療を提供できる体制が整ったことから、顎顔面外傷外来を設立させていただくことになりました。外来の予約枠に関わらず 24 時間体制で治療に当たっておりますので、これまで以上に御紹介をいただくと幸いに存じます。

さらに、インプラント外来、摂食嚥下外来、口腔ケア外来を設立し、専門的な医療を速やかに提供できる体制を整えています。インプラント外来では、一般的な歯科インプラント治療だけでなく歯槽骨が少ないためにインプラント治療が困難な患者に対して骨造成手術（GBR、骨移植術、上顎洞底拳上術など）を行っています。また、腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等により広範囲の歯槽骨・顎骨欠損を生じた症例に対しては顎骨再建を含めたインプラント治療（健康保険適用）を提供しています。

摂食嚥下外来では誤嚥性肺炎を起こしやすい高齢者や脳血管障害の患者などに対して、嚥下機能の評価や訓練を行っています。NST（栄養サポートチーム）の一員として、口腔の諸問題や摂食嚥下に関してアドバイスをすることもあります。また、口腔ケア外来では誤嚥性肺炎や口腔内細菌に起因する術後感染症を起こしやすい気管挿管中の患者や食道癌術後、頭頸部癌術後などの患者に対して、歯科医師、歯科衛生士からなる口腔ケアチームを編成し、専門的なケアや担当看護師への指導を行っています。

今後も地域の皆様に貢献できるような高度で心のこもった医療を提供できるよう、スタッフ一同努力していく所存ですので、今後とも御指導と御協力をいただけると幸いに存じます。



第 6 回医療連携フォーラム in 置賜

特別講演 「チーム医療と連携の実際 院内での取り組み」

尾道市立市民病院 地域医療連携室

看護師長 栗村 真須美氏

去る平成25年6月21日（金）、アストラゼネカ（株）主催で、第6回目となる医療連携フォーラム in 置賜が公立置賜総合病院にて開催されました。当日は、広島市の尾道市立市民病院より、地域医療連携室看護師長である栗村真須美先生を講師としてお迎えし、いわゆる「尾道方式」で展開する地域包括ケア・在宅医療の体制についてご講演をいただきました。（参加数 97 名）

【ご講演の概要紹介】

なぜ今、在宅医療を推進することが必要か。年間の死亡数のうち 85% が病院で死亡しているが 2032 年には死亡数が増加するため、患者さんの希望はもとより病院のパンク状態は加速していく。

そのため医療提供の方向性として地域ニーズを踏まえた機能分化や、在宅支援機能の強化が必要になってくる。

地域連携室が介入する退院支援患者には、医療処置の継続有無や ADL 低下、経済性、家族背景、認知症など様々な背景を勘案して支援を行う。患者の医療ニーズや生活ニーズに視点を置き、多職種協働で具体的に調整をし、退院後にも電話や訪問を行いサポートしている。

在宅に帰れない患者さんはいない

「尾道方式」は退院前のケアカンファレンス（以下 CC）に特徴がある。患者さんが安心して退院でき、切れ目のない医療・福祉・介護サービスを提供するために CC を実施するのだが、医師に関して **15分という時間設定**を設けている。そのため勤務医や在宅担当医に負担をかけず、また PT、OT、臨床心理士、薬剤師、栄養士、ケアマネ、民生委員、介護士等患者さんに関わる職員が一堂に会することができ、顔の見える関係性の構築ができる。患者・家族にとっても安心感・満足感が得られる効果がある。



在宅支援で重要なことは「患者・家族がどうしたいのか？」を最優先することである。医療者自身が「退院は難しいね」というようなレッテルを貼ってしまいがちである。**絶対に帰れない患者さんはいない**というスタンスのもと、生活者としての支援を提供していくことが重要である。

公立置賜総合病院

〒992-0601
山形県東置賜郡川西町
大字西大塚 2000 番地

TEL:
0238-46-5000

予約センターTEL:
0238-46-5700

FAX:
0238-46-5722

E-MAIL:
renkei@okitama-hp.or.jp

病院理念
心かよう信頼と安心の病院

置賜広域病院組合

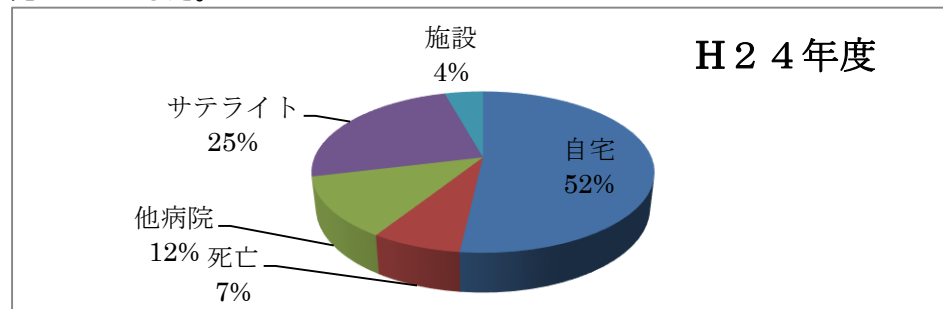
公立置賜総合病院

www.okitama-hp.or.jp

退院支援部門が介入した『退院調整患者』の退院先 1位が「自宅」

公立置賜総合病院は急性期病院であり、地域完結型の医療を行うことが目標です。患者さんが継続医療を安心して受けることができるように、またQOLを高められるように、地域の各医療機関、福祉関係機関と連携を取り活動を行っております。

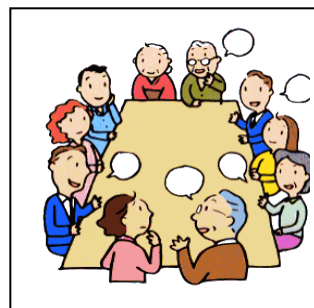
当院の平成24年度退院支援の件数 1237 件のうち、退院困難患者や医療依存度の高い患者など退院調整部門への依頼件数は 146 件でした。依頼された 146 件の退院先(下図)については、自宅が全体の半数、長井・南陽のサテライト病院への転院が約25%を占め、他病院12%、施設4%、死亡7%でした。



退院前『調整会議』で多職種連携

当院では、患者さんや家族に、安心した在宅生活を送っていただくために、多職種協働での退院前『調整会議』を行っております。患者・家族他、病院側として主治医・病棟看護師、退院支援専門員など、外部関係者として、かかりつけ医、ケアマネジャー、訪問看護師、サービス事業所職員等が参加して情報共有や在宅でのサービスの検討を行う会議です。患者さんが治療の場から生活の場に戻るにあたり連携協働して支えて行きたいと思っておりますので、お忙しいこととは存じますが、**院外関係者の方々の参加をお願いいたします。**

今年度から特に退院支援のみならず**在宅療養支援**として、外来、入院を問わずサポートを行っております。医療連携・相談室は、病院と地域の医療・福祉・行政機関との情報の橋渡しを重要な役割と考え、活動しております。より良い多職種連携をめざしてまいりますので、各院外関係者の方々からのご意見、ご要望など医療連携・相談室までご連絡ください。



「出前研修会」の開催

今病院で行っている医療の理解を広めるため、認定看護師による研修会を行っております。施設、事業所のご希望の方、御依頼をお待ちしております。[TEL:0238-46-5000\(内線 1901\)](tel:0238-46-5000)まで

お知らせ

予約センターが直営になりました

平成25年4月より予約センターが直営になりました。

さらなる医療連携の強化推進を図るため、よりスピーディーに、より正確に、地域の医師や患者さんとの橋渡しに努めて参ります。よろしくお願いいたします。

